

ガビチョウ(雅媚鳥)とソウシチョウ(相思鳥)という、どちらも外来種で繁殖力の強い野鳥？ の声が、いよいよ昨年からの近辺にも響きわたるようになった。従来の野鳥図鑑に載っていないし、まったくなじみのないその派手な啼き声をはじめて耳にしたとき、店のテラスにいた者全員が、いっせいに「なに？ これ？」と、顔を見合わせた。

三年前だったか、映像カメラマンの伊藤浩美さんが、御殿場にガビチョウやソウシチョウ、クマゼミが啼いているので、そのうち富士北麓にもあがってきますよと、予告されていたが、まさかこんなに早くその声を聞くとは思わなかった。

クマゼミの啼き声も、湖畔ですでに確認されてしまった。なぜ、いるはずのない野鳥や昆虫がいるのかというと、ひとつに地球温暖化による生態系の移動が考えられるが、もっとほかに、見落としている理由があるのかもしれない。

主に、早朝と夕方に啼くその鳥たちが、昼間はどこにいるのか知らないが、彼らの啼き声は大きく、メロディカルに抑揚が付き、まるで楽器で演奏されているように賑やかだ。従来の野鳥で、イカルやキビタキも美しく啼くが、ガビチョウほど舞台なれしてはいない。

御殿場の住人曰く、ガビチョウやソウシチョウの数が増え、キビタキの個体数が明らかに少なくなったという。

早朝4時、夜半からずっと啼きつづけていたホトギス(不如帰)がやっと静かになり、さあて少し熟睡でもするかと思った矢先、ガビチョウがほがらかに啼きだした。

夫がとつぜん「ジャングルで目覚めたみたいだな」とつぶやいた。

西暦2008年9月現在、標高1000メートルの富士北麓は、今のところ、たしかに高原と言われているが……。